

e ラーニングシステムの導入方法と管理運営

保健衛生学部 医療栄養学科 臨床検査コース 荻津 直通

1. 初めに

時代の変化に伴い学生の学修形態も多様化し、単なる座学の一方向的な授業形態のみでは学生には受け身のままで学修意欲の継続が難しい状況にある。さらに大学設置基準等の大綱化など、様々な教育改革が行われてきた。これからの教育には学生の能動的な活動が必須とされている。この能動的学修のためには現在の教授方法の改善が必要である。今回、教授方法の改善のためのツールとして、「ICT の活用」を提案する。

2. 方法

ICT の活用の中でも e ラーニングは最も多くの教育機関で活用されているツールである。e ラーニングとは、教師が作成した資料、音声、動画、インターネット上の Web ページなど多様な教材の掲載、多様な方式の試験、レポートの提出、など学生の授業外での自主学修を促す教材を掲載したインターネットを用いる学修形態である。e ラーニングはインターネットを利用することで、時間と場所の制約がなく、いつでもどこでも（スマートフォンでも）学修することが可能であり、受講者が自身の都合の良い時間に学修できる。また、理解度に合わせて納得のいくまで何度も繰り返し学ぶことができる。

3. 効果

この e ラーニングを用いることにより、学生が予習、復習などの授業外学修を能動的、計画的に行うことが可能となる。一例として予習には講義の動画を e ラーニングに掲載し、学修したことを確認するためのレポートもしくは小テストを実施する。復習には授業内容の小テストを作成し、解答の解説を充実させ、満点が取れるまで繰り返し学修するよう促す。さらにこの小テストは、2 回目以降は数日後に学修するよう時間設定を組み込むなどの学修を行うための仕組みを組み込むことにより、自学自習の機会を多く与えることができる。また掲示板やメッセージ機能を活用することにより、教師と学生のコミュニケーションの向上にも有用である。

4. 運用

e ラーニングには多彩な機能を有しているため、学生の能動的自己学修には、多彩な方法が考案できる。さらに能動的学修を行わせる教育技法は多数報告されている。この e ラーニングの活用のためには、教育技法の提示、教師が教材を作成するための補助、教材を e ラーニングに掲載するための労力も必要となる。そのためにこれらの作業を行う人材が必要となる。この e ラーニングを活用するためにも、管理と運営を組織的活動で「ICT の活用」事業を進めていくことが必要となるであろう。